

親が知覚した幼児のメディア使用実態と その依存への解決策について

朴 錫 圭¹

Parents' perceptions of preschool children's use of media,
and a proposal to solve the problem of media dependance

Sukkyu PARK

要 約

本研究の目的は親のメディア使用実態と親が知覚する子供（3歳－5歳）のメディア使用実態を調査し、その原因を調べ、親のメディア使用が子供のメディア使用に与える影響を検証して、これによる親が知覚した子供のメディア過没入についての解決方法を模索することである。U広域市に所在している幼稚園の14個所の5－7歳の子供を育てている父母1307名を対象として2014年9月から10月までの2ヶ月間、設問調査を実施した。本研究は量的結果と質的結果全てを分析する混合研究方法を使用した。親自身のメディア使用実態と自身が知覚した子供のメディア使用実態の結果と親のメディア使用が子供のメディア使用に与える影響についての量的結果分析には頻度分析と多重回帰分析を実施し、親が知覚した子供のメディア過没入についての解決方法の結果分析は質的分析方法である意味単位分析方法を使用した。本研究を通じて親が家庭で実践している子供の正しいメディア使用についての模索とメディア活用にあつての必須的な教育内容についての模索しようとするものである。

主題語：スマートフォン、コンピューター及びTV使用、メディア過没入、解決方法

I. 序 論

最近、我々の社会は情報通信技術の発達により、TV、インターネット、スマートフォンに代表されるデジタルメディアが動画、情報検索、SNS活動、ゲームなどの余暇活動として大部分を占めるようになった。しかし、このようなデジタルメディアの拡散は幼児をゲームや動画などにより露出させやすく、特にスマートフォンアプリケーションの場合、年齢制限の規定がぜんぜんなく、早い年齢から露出される可能性をもっと高める。これは幼児期以降、ゲーム中毒につな

¹ 朴錫圭，蔚山科学大学校幼児御育科教授

がる可能性として指摘されている (이은경, 2007)。したがって、幼児のデジタルメディア使用についての社会的関心及び適切な案内が必要だということが分かる。

このような情報器機をおもちゃとする幼児が増加し、これによる注意力欠乏過剰行動障害の発生危険も高くなり、バランスのよい脳発達と思考力が落ちる可能性もあるため、親たちの注意が必要となる。先行研究を見ると、映像物の利用時期が低年齢化され、幼児の映像物利用増加及びこれによる精神健康問題が提起され (이경숙, 정석진, 박진아, 2013)、インターネット使用の過没入は反復性ストレス損傷症候群、コンピューター端末機症候群の以外、暴力性、衝動性の増加と自己調節力の損失などの否定的な影響を与える (강정원, 장수진, 김승옥, 2011)。そして、スマートフォンの大衆化と関連したスマートメディア中毒は幼児期の主要な発達課題である社会、情緒的能力の発達を阻害する可能性が高いことと示された (임명희, 박윤조, 2011)。Brenner (1997) によると、インターネットやゲームの中毒的な使用は使用者の年齢が若いほどもっとたくさんさんの難しさをを経験する傾向がある (최지은, 문수백, 2010, 再引用)。自己調節能力とメディア中毒は高い負的相関が見られ、自己調節能力が低いほどインターネット及びメディアに中毒される可能性が高いという先行研究 (강병재, 2008; 김병년, 고은정, 최홍일, 2013; 박정아, 2013; Young, 1997) を見ると、幼児であるほどメディア使用による中毒及び問題が発生する確率が高いと言える。

このようなスマートフォンを通じたスマートメディア中毒についての問題認識が高くなったことにより幼児教育の領域でもスマートメディア中毒研究が行われているが、まだ十分ではないし (김환남, 이선애, 이은경, 천재현, 김성희, 2014) このようなメディア中毒は親の低い理解度が影響を与えとも言える。多様な幼児用のアプリケーションが開発されることにより、もっと多くの親がスマートメディアを一種のベビーシッター用途 (권연정, 2014) として活用するだけでなく、幼児の学習発達に肯定的な影響を与えると認識することにあられた (이주연, 2011)。そして、親のゲーム行動が幼児のゲーム行動に影響を与える可能性が高く、親の片方がゲーム中毒の問題があつて幼児が放置される場合、ゲーム中毒の可能性がある (이경옥, 김민화, 김승옥, 김혜수, 2006) の研究結果は幼児のメディア使用現状についての親の影響が主要原因だということが分かる。

また、親のインターネット中毒の程度が幼児のインターネットゲーム中毒傾向性に影響を与える (강정원, 장수진, 김승옥, 2011) という研究結果は幼児のメディア使用実態を見るためには親のメディア使用実態も一緒に調査するべきだということを示す。つまり、親の使用実態と認識及び態度が、幼児の使用傾向に影響を与えるということが分かる。

したがって、親が知覚する自分のメディア使用実態と幼児のメディア使用実態を調査してその原因を究明し、親の認識及び態度を調べる必要がある。

本研究の研究問題は次のようである。

1. 親のメディア (スマートフォン, コンピューター, TV) 使用実態はどうか?
2. 親が知覚した幼児のメディア (スマートフォン, コンピューター, TV) 使用実態はどう

親が知覚した幼児のメディア使用実態とその依存への解決策について（朴 錫圭）

か？

3. 親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響はどうか？

4. 親が知覚した解決策は何か？

Ⅱ. 研究方法

1. 研究方法

本研究はU広域市に所在している幼稚園14個所の5－7歳の子供を育てている父母1350名を対象として2014年9月から10月まで2ヶ月間設問調査を実施し、サンプリングをした。本研究の目的と方法を説明し、教師の同意を得た後、親1350名をサンプリングし、この中で返答がまじめではないものや抜けの設問紙43部を除外した全て1307部を最終有効表本として選定した。

2. 測定道具

1) 人的事項及び学習実態、メディア使用実態測定道具

幼児と親の人的事項及び学習実態とスマートフォン、コンピューター、TV使用実態を調べるため、김희진 (2014), 백선미 (2009) の研究を参照し, 한국정보화진흥원 (2011) で開発した青少年スマートフォン中毒自己診断尺度を本研究に適合するよう修正と補完して使用した。

3. 資料処理方法

本研究の資料処理はSPSS 21.0プログラムを利用し、幼児と親の人的事項及び学習実態そして、スマートフォン、コンピューター、TVの使用実態を分析するために頻度分析を実施し、百分率を提示した。親自身のメディア使用実態と自分が知覚した幼児のメディア使用実態の結果と親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響についての量的結果分析には頻度分析と多重回帰分析 (multiple regression analysis) を実施し、親が知覚した幼児のメディア過没入についての解決策の結果分析は質的分析方法である意味単位分析方法を使用した。分析結果の統計的の有意水準は $\alpha = .05$ に設定した。

Ⅲ. 研究結果

1. 親のメディア（スマートフォン、コンピューター、TV）使用実態

本研究に参加した親の人的事項及びメディア使用実態は＜表1＞、＜表2＞のようである。父親の年齢を見ると、36歳以上40歳以下が599名(45.8%), 31歳以上35歳以下が416名(31.8%), 41歳以上45歳以下が205名(15.7%) 順の分布が現われた。父親の就職形は正社員が1203名(92.0%), 休職もしくは専業主婦が66名(5.1%), パートタイムが38名(2.9%)で、大部分が正社員が見

られている。そして、夜間勤務有無はあるという931名（71.2%）、ないという376名（28.8%）と示しており、お父さんの最終学力は専門大卒が549名（42.0%）、4年制大卒が364名（27.9%）、高校卒以下が347名（26.5%）の順だった。

母親の年齢を見ると、31歳以上35歳以下が679名（52.0%）、36歳以上40歳以下が408名（31.1%）、26歳以上30歳以下及び41歳以上45歳以下が同じく91名（7.0%）順の分布が見られた。母親の就職は休職もしくは専業主婦が812名（62.1%）、正社員が336名（25.7%）、パートタイムが159名（12.2%）として大部分が休職もしくは専業主婦の形を示している。そして、夜間勤務有無はないというのは962名（73.6%）、あるというのは345名（26.4%）に示され、母親の最終学力は専門大卒が618名（47.3%）、高校卒以下が336名（25.7%）、4年制大卒が326名（24.9%）の順で

表 1. 親の人的事項

N (%)

		区分	頻度 (%)	合計 (%)
父	年齢	20歳～25歳	15 (1.1)	1307 (100)
		26歳～30歳	26 (2.0)	
		31歳～35歳	416 (31.8)	
		36歳～40歳	599 (45.8)	
		41歳～45歳	205 (15.7)	
		46歳～50歳	40 (3.1)	
		51歳～55歳	4 (0.5)	
	就職形	休職もしくは専業主婦	66 (5.1)	1307 (100)
		正社員	1203 (92.0)	
		パートタイム	38 (2.9)	
	夜間勤務有無	ある	931 (71.2)	1307 (100)
		無し	376 (28.8)	
	最終学力	高校卒以下	347 (26.5)	1307 (100)
		専門大卒	549 (42.0)	
		4年制大卒	364 (27.9)	
		大学院以上	47 (3.6)	
母	年齢	20歳～25歳	22 (1.7)	1307 (100)
		26歳～30歳	91 (7.0)	
		31歳～35歳	679 (52.0)	
		36歳～40歳	408 (31.1)	
		41歳～45歳	91 (7.0)	
		46歳～50歳	7 (0.5)	
		51歳～55歳	9 (0.7)	
	就職形	休職もしくは専業主婦	812 (62.1)	1307 (100)
		正社員	336 (25.7)	
		パートタイム	159 (12.2)	
	夜間勤務有無	ある	345 (26.4)	1307 (100)
		無し	962 (73.6)	
	最終学力	高校卒以下	336 (25.7)	1307 (100)
		専門大卒	618 (47.3)	
		4年制大卒	326 (24.9)	
		大学院以上	27 (2.1)	

親が知覚した幼児のメディア使用実態とその依存への解決策について（朴 錫圭）

表 2. 親のメディア使用実態

N (%)

区分		頻度 (%)			合計 (%)
		スマートフォン	コンピューター	TV	
使用時間	ほとんど使用しない	75 (5.7)	505 (38.6)	106 (8.1)	1307 (100)
	一日に30分未満	303 (23.2)	322 (24.6)	156 (11.9)	
	一日に1時間未満	437 (33.4)	167 (12.8)	377 (28.8)	
	一日に1 - 2時間	280 (21.4)	118 (9.0)	390 (29.8)	
	一日に2 - 3時間	89 (6.8)	59 (4.5)	159 (12.2)	
	一日に3時間以上	99 (7.6)	69 (5.3)	84 (6.4)	
	無応答	24 (1.8)	67 (5.1)	35 (2.7)	
父 週末 使用時間	ほとんど使用しない	95 (7.3)	580 (44.4)	65 (5.0)	1307 (100)
	30分未満	286 (21.9)	304 (23.3)	109 (8.3)	
	1時間未満	350 (26.8)	151 (11.6)	276 (21.1)	
	1 - 2時間	289 (22.1)	125 (9.6)	361 (27.6)	
	2 - 3時間	140 (10.7)	37 (2.8)	254 (19.4)	
	3時間以上	120 (9.2)	31 (2.4)	213 (16.3)	
	無応答	27 (2.1)	79 (6.0)	29 (2.2)	
一番多い活動	ゲーム	464 (35.5)	171 (13.1)	5 (0.4)	1307 (100)
	検索及びニュース	624 (47.7)	354 (27.1)	384 (29.4)	
	買い物	32 (2.4)	93 (7.1)	30 (2.3)	
	学習	24 (1.8)	57 (4.4)	32 (2.4)	
	ドラマ	24 (1.8)	22 (1.7)	423 (32.4)	
	その他（友達との対話）	61 (4.7)	230 (17.6)	343 (26.2)	
	無応答	78 (6.0)	380 (29.1)	90 (6.9)	
使用時間	ほとんど使用しない	48 (3.7)	496 (37.9)	147 (11.2)	1307 (100)
	一日に30分未満	366 (28.0)	425 (32.5)	185 (14.2)	
	一日に1時間未満	477 (36.5)	188 (14.4)	333 (25.5)	
	一日に1 - 2時間	281 (21.5)	78 (6.0)	378 (28.9)	
	一日に2 - 3時間	68 (5.2)	26 (2.0)	174 (13.3)	
	一日に3時間以上	49 (3.7)	31 (2.4)	69 (5.3)	
	無応答	18 (1.4)	63 (4.8)	21 (1.6)	
母 週末 使用時間	ほとんど使用しない	111 (8.5)	765 (58.5)	100 (7.7)	1307 (100)
	30分未満	395 (30.2)	261 (20.0)	149 (11.47)	
	1時間未満	444 (34.0)	128 (9.8.)	313 (23.9)	
	1 - 2時間	236 (18.1)	63 (4.8)	414 (31.7)	
	2 - 3時間	60 (4.6)	13 (1.0)	200 (15.3)	
	3時間以上	42 (3.2)	6 (0.5)	108 (8.3)	
	無応答	19 (1.5)	71 (5.4)	23 (1.8)	
一番多い活動	ゲーム	148 (11.3)	24 (1.8)	4 (0.3)	1307 (100)
	検索及びニュース	811 (62.1)	303 (23.2)	171 (13.1)	
	買い物	167 (12.8)	367 (28.1)	54 (4.1)	
	学習	35 (2.7)	100 (7.7)	40 (3.1)	
	ドラマ	15 (1.1)	17 (1.3)	806 (61.7)	
	その他（友達との対話）	81 (6.2)	150 (11.5)	149 (11.4)	
	無応答	50 (3.8)	346 (26.5)	83 (6.4)	

ある。

使用実態に関する結果を総合してみると、父母のスマートフォン使用が共通的にほとんど毎日使用する頻度が高く、一日に1時間未満に活用することであり、これとほぼ同じくTV視聴は一日に1－2時間くらい視聴することとして示されたが、コンピューターの使用は平日ほとんど使用しないと示された。また、大部分の父親の場合、メディア使用を通じて検索及びニュースを見たりゲームをすることであり、母親はメディア使用を通じて検索及びニュースを見たり買い物をすることだった。このような結果は利用時間現況で、1時間未満として使用する親が多数であり、スマートフォンのメッセージ及びSNSサービスとゲームの使用が高い順位だったと報告された(조권형, 2014)の研究は部分的に類似結果が見られる。

2. 親が知覚した幼児のメディア（スマートフォン、コンピューター、TV）使用実態

親が知覚した幼児の人的事項とスマートフォン、コンピューター、TV使用実態を頻度、時間、使用時期、活動、同伴者、規則、使用理由、長所短所、空間、認識度、解決方法、中毒程度などの内容を分析してあり、具体的な実態調査のために頻度分析による百分率算出と優先順位及び二分型多重応答分析を通じて使用実態を測定した<表3>、<表4>。

幼児の人的事項について調べてみると、まず、出生年度は2008年度に出生した7歳の幼児は513名(39.3%)、2009年度に出生した6歳は457名(35.0%)、2010年度に出生した5歳は337名(25.7%)の順だった。性別は男性673名(51.5%)、女性634名(48.5%)です。幼稚園幼稚園

表3. 親が知覚した幼児の人的事項			N (%)
区分		頻度 (%)	合計 (%)
出生年度	2008	513 (39.3)	1307 (100)
	2009	457 (35.0)	
	2010	337 (25.7)	
性別	男性	673 (51.5)	1307 (100)
	女性	634 (48.5)	
幼稚園が終わった後, 居場所	家にいる	248 (19.0)	1307 (100)
	家にはいない	1059 (81.0)	
家庭にいる場合	一人にいる	256 (19.6)	1307 (100)
	親と一緒に	926 (70.8)	
	祖父母と一緒に	83 (6.4)	
	兄弟と一緒に	26 (2.0)	
	友達と一緒に	4 (0.3)	
	お手伝いさんと一緒に	5 (0.4)	
	その他	7 (0.5)	
家庭以外の他の所	保育園	988 (75.5)	1307 (100)
	塾	241 (18.4)	
	友達の家	19 (1.5)	
	お手伝いさんの家	5 (0.4)	
	隣の家	10 (0.8)	
	その他	44 (3.4)	

親が知覚した幼児のメディア使用実態とその依存への解決策について（朴 錫圭）

が終わった後、幼児の居場所は家にいない場合1059名（81.0%）、家にいる場合248名（19.0%）であった。幼稚園が終わった後、家庭にいる場合を具体的に見ると、親と一緒にいる場合926名（70.8%）、一人でいる256名（19.6%）、祖父母と一緒に83名（6.4%）、兄弟と一緒に26名（2.0%）、その他7名（0.5%）、お手伝いさんと一緒に5名（0.4%）、友達と一緒に4名（0.3%）の順である。幼稚園が終わった後、家庭以外の他の所にいる場合を具体的に見ると、保育園988名（75.5%）、塾241名（18.4%）、その他44名（3.4%）、友達の家19名（1.5%）、隣の家10名（0.8%）、お手伝いさんの家5名（0.4%）順であった。

スマートフォンが幼児に及ぼす悪いところを見ると、ゲームについて過没入する408名（31.2%）、他の活動についての興味が減った253名（19.4%）、全然無い179名（13.7%）、寝る時間が遅くなった119名（9.1%）、運動量が少なくなった89名（6.8%）、食事の時間が長くなった84名（6.4%）順で、無回答は175名（13.4%）だった。コンピューターの使用が幼児に及ぼす悪いところを見ると、全然無い273名（20.9%）、他の活動についての興味が減った197名（15.1%）、ゲームについて過没入する177名（13.5%）、運動量が少なくなった104名（8.0%）、食事の時間が長くなった93名（7.1%）、寝る時間が遅くなった84名（6.4%）順で、無回答は379名（29.0%）です。TV視聴が幼児に及ぼす悪いところを見ると、食事の時間が長くなった334名（25.6%）、他の活動についての興味が減った302名（23.1%）、寝る時間が遅くなった205名（15.7%）、運動量が少なくなった169名（12.9%）、全然無い160名（12.2%）、ゲームについて過没入する73名（5.6%）順で、無回答は64名（4.9%）である。

幼児のスマートフォンの使用についての情報や問題点についての解決方法をどこから探すのかについての応答を見ると、親452名（34.6%）、本やインターネットなどの資料448名（34.3%）、搜さない123名（9.4%）、幼稚園教師及び専門が99名（7.6%）、友達56名（4.3%）、その他28名（2.1%）順で、無回答は101名（7.7%）である。幼児のコンピューターの使用についての情報や問題点についての解決方法をどこから探すのかについての応答を見ると、本やインターネットなどの資料392名（30.0%）、親331名（25.3%）、搜さない146名（11.2%）、幼稚園教師及び専門が87名（6.7%）、友達45名（3.4%）、その他44名（3.4%）順で、無回答は262名（20.0%）である。幼児のTV視聴についての情報や問題点についての解決方法をどこから探すのかについての応答を見ると、親534名（40.9%）、本やインターネットなどの資料389名（29.8%）、搜さない113名（8.6%）、幼稚園教師及び専門が103名（7.9%）、友達80名（6.1%）、その他31名（2.4%）順で、無回答は57名（4.4%）であった。

親が知覚した幼児のスマートフォン中毒の程度を見ると、そうではない589名（45.1%）、全然そうではない498名（38.1%）、そうである162名（12.4%）、とてもそうである12名（0.9%）順で無回答は46名（3.5%）である。親が知覚した幼児のコンピューターの使用にあって中毒の程度を見ると、全然そうではない673名（51.5%）、そうではない451名（34.5%）、そうである41名（3.1%）、とてもそうである4名（0.3%）順で、無回答は138名（10.6%）だった。親が知覚した幼児のTV視聴にあって中毒の程度を見ると、そうではない583名（44.6%）、全然そうではない396名（30.3%）、そうである273名（20.9%）、とてもそうである35名（2.7%）順で、無回答

表 4. 親が知覚した幼児のメディア使用実態

N (%)

	区分	頻度 (%)			合計 (%)
		スマートフォン	コンピューター	TV	
使用頻度	ほとんど使用しない	419 (32.1)	738 (56.5)	53 (4.1)	1307 (100)
	月に1－2回	101 (7.7)	109 (8.3)	32 (2.4)	
	二週間に1回	53 (4.1)	48 (3.7)	38 (2.9)	
	一週間に1回	287 (22.0)	240 (18.4)	141 (10.8)	
	一週間に3－6回	308 (23.6)	85 (6.5)	428 (32.7)	
	毎日	128 (9.8)	36 (2.8)	596 (45.6)	
	無応答	11 (0.8)	51 (3.9)	19 (1.5)	
平日使用時間	ほとんど使用しない	528 (40.4)	777 (59.4)	123 (9.4)	1307 (100)
	月に1－2回	87 (6.7)	90 (6.9)	31 (2.4)	
	二週間に1回	42 (3.2)	45 (3.4)	44 (3.4)	
	一週間に1回	207 (15.8)	173 (13.2)	121 (9.3)	
	一週間に3－6回	261 (20.0)	79 (6.0)	367 (28.1)	
	毎日	118 (9.0)	45 (3.4)	544 (41.6)	
	無応答	64 (4.9)	98 (7.5)	77 (5.9)	
週末使用時間	ほとんど使用しない	490 (37.5)	771 (59.0)	93 (7.1)	1307 (100)
	月に1－2回	108 (8.3)	96 (7.3)	44 (3.4)	
	二週間に1回	48 (3.7)	37 (2.8)	52 (4.0)	
	一週間に1回	220 (16.8)	158 (12.1)	196 (15.0)	
	一週間に3－6回	193 (14.8)	52 (4.0)	263 (20.1)	
	毎日	158 (12.1)	88 (6.7)	559 (42.8)	
	無応答	90 (6.9)	105 (8.0)	100 (7.7)	
使用時期	幼稚園に行く前	53 (4.1)	19 (1.5)	306 (23.4)	1307 (100)
	幼稚園が終わった後, 午後5時前	88 (6.7)	47 (3.6)	85 (6.5)	
	午後5時から食事の前	203 (15.5)	147 (11.2)	358 (27.4)	
	夕食後寝る前	221 (16.9)	108 (8.3)	227 (17.4)	
	暇がある時はいつも	63 (4.8)	49 (3.7)	111 (8.5)	
	週末の間	226 (17.3)	173 (13.2)	161 (12.3)	
	無応答	453 (34.7)	764 (58.5)	59 (4.5)	
一番多くする活動	学習(韓国語, 数科学, 英語など)	65 (5.0)	222 (17.0)	73 (5.6)	1307 (100)
	ゲーム	374 (28.6)	123 (9.4)	18 (1.4)	
	動画(漫画, ドラマ視聴等)	358 (27.4)	179 (13.7)	1001 (76.6)	
	童画及び童謡	148 (11.3)	121 (9.3)	123 (9.4)	
	検索及び写真撮影	66 (5.0)	10 (0.8)	5 (0.4)	
	その他(友達との対話)	21 (1.6)	38 (2.9)	25 (1.9)	
	無応答	275 (21.0)	614 (47.0)	62 (4.7)	
主に一緒にする人	一人で	333 (25.5)	117 (9.0)	166 (12.7)	1307 (100)
	お母さん	245 (18.7)	200 (15.3)	417 (31.9)	
	お父さん	150 (11.5)	108 (8.3)	113 (8.6)	
	兄弟, 姉妹	299 (22.9)	249 (19.1)	538 (41.2)	
	友達	4 (0.3)	4 (0.3)	12 (0.9)	
	その他	13 (1.0)	34 (2.6)	19 (1.5)	
	無応答	263 (20.1)	595 (45.5)	42 (3.2)	
使用可否	子供が欲しがるときいつも使用する	54 (4.1)	49 (3.7)	152 (11.6)	1307 (100)
	親が一定な時間を決めて使用	284 (21.7)	250 (19.1)	382 (29.2)	
	子供と親が作った規則により使用	138 (10.6)	115 (8.8)	184 (14.1)	
	状況により子供と親と一緒に決定	568 (43.5)	289 (22.1)	505 (38.6)	
	その他	31 (2.4)	56 (4.3)	38 (2.9)	
	無応答	232 (17.8)	548 (41.9)	46 (3.5)	

親が知覚した幼児のメディア使用実態とその依存への解決策について（朴 錫圭）

表 4（続き）

N（%）

区分	頻度（％）			合計（％）	
	スマートフォン	コンピューター	TV		
許容する理由	子供が興味を感じるから	287（22.0）	155（11.9）	294（22.5）	1307（100）
	幼児の注意を回すことで親が忙しい時間を解決できるから	281（21.5）	89（6.8）	294（22.5）	
	私が遊んであげない間、退屈な時間を何とか過ごすことができるから	265（20.3）	139（10.6）	447（34.2）	
	学習的な要素があるから	109（8.3）	256（19.6）	126（9.6）	
	その他	96（7.3）	79（6.0）	88（6.7）	
	無応答	269（20.6）	589（45.1）	58（4.4）	
長所	全然無い	407（31.1）	309（23.6）	404（30.9）	1307（100）
	親を面倒くさくしないで一人でよく遊ぶことになった	189（14.5）	89（6.8）	352（26.9）	
	学習（韓国語、英語）がもっと上手になった	136（10.4）	243（18.6）	200（15.3）	
	全般的に偉くなった	23（1.8）	46（3.5）	42（3.2）	
	兄弟（友達）と仲がよかった	28（2.1）	29（2.2）	92（7.0）	
	メディア操作能力が好きになった	330（25.2）	160（12.2）	113（8.6）	
	無応答	193（14.8）	431（33.0）	104（8.0）	
短所（順位）	1 順位	824（64.6）	64（5.0）	387（30.4）	1275（100）
	2 順位	352（28.2）	388（31.1）	504（40.7）	1244（100）
	3 順位	75（6.1）	785（63.9）	368（30.0）	1228（100）
短所	全然無い	179（13.7）	273（20.9）	160（12.2）	1307（100）
	寝る時間が遅くなった	119（9.1）	84（6.4）	205（15.7）	
	食事の時間が長くなった	84（6.4）	93（7.1）	334（25.6）	
	運動量が少なくなった	89（6.8）	104（8.0）	169（12.9）	
	ゲームについて過没入する	408（31.2）	177（13.5）	73（5.6）	
	他の活動についての興味が減った	253（19.4）	197（15.1）	302（23.1）	
	無応答	175（13.4）	379（29.0）	64（4.9）	
使用の対案	正しい使用法についての教育	482（36.9）	471（36.0）	389（29.8）	1307（100）
	家族や友達の関心	244（18.7）	157（12.0）	238（18.2）	
	全然使用できないようにする環境	117（9.0）	99（7.6）	95（7.3）	
	外で遊ぶことなどの頻繁な外部活動	351（26.9）	283（21.7）	519（39.7）	
	その他	15（1.2）	32（2.4）	17（1.3）	
	無応答	98（7.5）	265（20.3）	49（3.7）	
問題認識程度	とても多い	136（10.4）	71（5.4）	76（5.8）	1307（100）
	おおい方だ	259（19.8）	158（12.1）	332（25.4）	
	そんなに多くない	529（40.5）	430（32.9）	633（48.4）	
	ほとんどない	312（23.9）	477（36.5）	245（18.7）	
	無応答	71（5.4）	171（13.1）	21（1.6）	
解決案経路	捜さない	123（9.4）	146（11.2）	113（8.6）	1307（100）
	本やインターネットなどの資料	448（34.3）	392（30.0）	389（29.8）	
	学校の教師及び専門家	99（7.6）	87（6.7）	103（7.9）	
	親	452（34.6）	331（25.3）	534（40.9）	
	友達	56（4.3）	45（3.4）	80（6.1）	
	その他	28（2.1）	44（3.4）	31（2.4）	
	無応答	101（7.7）	262（20.0）	57（4.4）	
中毒程度	とてもそうである	12（0.9）	4（0.3）	35（2.7）	1307（100）
	そうである	162（12.4）	41（3.1）	273（20.9）	
	そうではない	589（45.1）	451（34.5）	583（44.6）	
	全然そうではない	498（38.1）	673（51.5）	396（30.3）	
	無応答	46（3.5）	138（10.6）	20（1.5）	

は20名（1.5％）である。まだは幼児の場合，スマートフォン，コンピューター，TV 使用中の中毒による問題が深刻ではないことがうかがえる。

3. 親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響

親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響力を調べるために多重回帰分析を実施した結果は次の＜表5＞の通りである。

まず，幼児の一週間のスマートフォンの使用時間を見ると，模擬週末スマートフォンの使用時間，模擬コンピューターの活動，模擬最終学力，模擬就職形，週末の父のコンピューターの使用時間が幼児の一週間のスマートフォンの使用時間に与える影響を調べるために多重回帰分析を実施し，その結果を＜表5＞に提示した。幼児の一週間のスマートフォンの使用時間についての模型説明力は12％（ $F=34.57$, $p<.001$ ）で有意なものとして示され，分析結果，週末の母のスマートフォンの使用時間（ $\beta=.27$, $p<.001$ ），母のコンピューター活動（ $\beta=.16$, $p<.001$ ），母の最終学力（ $\beta=-.11$, $p<.001$ ），母の就職形（ $\beta=-.07$, $p<.05$ ），週末の父のコンピューター使用時間（ $\beta=-.07$, $p<.05$ ）が幼児の一週間のスマートフォンの使用時間に有意な影響を与えることだった。

また，幼児の一週間のコンピューターの使用時間を見ると，模擬コンピューター活動，週末父のコンピューターの使用時間，母の就職が幼児の一週間のコンピューターの使用時間に与える影響を調べるために多重回帰分析を実施し，その結果を＜表5＞に提示した。幼児の一週間のコンピューターの使用時間についての模型説明力は54％（ $F=505.83$, $p<.001$ ）と有意なこととして示され，分析結果，母のコンピューター活動（ $\beta=.73$, $p<.001$ ），週末父のコンピューターの使用時間（ $\beta=.05$, $p<.01$ ），母の就職形（ $\beta=-.04$, $p<.05$ ）幼児の一週間のスマートフォンの使用時間に有意な影響を与えることが判明した。

表5. 親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響

予測変数	従属変数	B	β	t	R^2	F
週末母のスマートフォンの使用時間	幼児一週間のスマートフォンの使用時間	.26	.27	10.16***	0.12	34.57***
母のコンピューター活動		.12	.16	5.96***		
母の最終学力		-.12	-.11	-3.87***		
母の就職形		-.12	-.07	-2.54*		
週末父のコンピューターの使用時間	幼児一週間のコンピューターの使用時間	-.07	-.07	-2.41*	0.54	505.83***
母のコンピューター活動		.77	.73	38.50***		
週末父のコンピューターの使用時間		.08	.05	2.76**		
母の就職形		.11	.04	2.28*		
週末父のコンピューター使用時間	幼児一週間のTV 使用時間	.19	.16	5.69***	0.10	38.89***
母のコンピューター活動		.17	.20	7.53***		
母の最終学力		.17	.13	4.70***		
母の就職形		.12	.06	2.16**		

親が知覚した幼児のメディア使用実態とその依存への解決策について（朴 錫圭）

そして、幼児の一週間の TV 視聴時間を見ると、父のコンピューターの使用時間、母のコンピューター活動、母の最終学力、母の就職形が幼児の一週間の TV 使用時間に与える影響を調べるために多重回帰分析を実施し、その結果を<表 5>に提示した。幼児の一週間の TV 使用時間についての模型説明力は10% ($F=38.89$, $p<.001$) で有意なものと示され、分析結果父のコンピューターの使用時間 ($\beta=.16$, $p<.001$)、母のコンピューター活動 ($\beta=.20$, $p<.001$)、母の最終学力 ($\beta=.13$, $p<.001$)、母の就職形 ($\beta=.06$, $p<.01$) が幼児一週間の TV 視聴時間に有意な影響を与えることが判明した。

4. 親が知覚したメディア過没入解決策

1) 親が家庭で実践している幼児の正しいメディア使用についての方案

親が家庭で実践している幼児の正しいメディア使用を開放型項目として設問をした。開放型項目について自由に作成した内容を意味単位として分析した結果は次の<表 6>である。

親の自由意見を何回も繰り返して読み、意味のある核心語句を中心として一次分類した後、分類された核心の語句を通じて意味単位を抽出した。親の指導で決められた時間と規則、親が子供の模範として使用の自制、他の遊び活動、ほとんど使用しない、使用できなくする、学習に役に

表 6. 幼児の正しいメディア使用についての親の実践方案

N (%)

意味単位	スマートフォン	コンピューター	TV	合計	自由意見の例
親の指導で決められた時間と規則適用	248 (45.0)	172 (36.1)	309 (54.5)	729 (45.7)	親と一緒に使用 約束を守ったとき、誇りと補償 使用時間、条件を決めること 約束を守らなかった場合、次の日に使用できないようにする
ほとんどメディアを使用しない	35 (6.3)	94 (19.7)	13 (2.2)	142 (8.9)	使用しない 必ず必要な場合だけ使用 必要時だけ使用
学習に役に立つ 検索及び使用	32 (5.8)	60 (12.6)	47 (8.3)	139 (8.7)	学習関係資料、教育目的アプリダウンロード、童画（スマートフォン） 正しいプログラム、英語勉強、学習についての興味を高める、学習だけに使用（コンピューター） 教育プログラム（TV）
他の遊び活動代替	34 (6.1)	24 (5.0)	63 (11.1)	121 (7.6)	描き、本読み、子供と遊ぶ 外での遊び 他の活動ができる環境を作る
親が子供の模範として使用自制	57 (10.3)	35 (7.3)	19 (3.3)	111 (6.9)	子供の前で使用しない スマートフォン露出自制 TV、コンピューターの使用自制 子供が寝るとき使用 親が使用時間を減らす。
使用できなくする	27 (4.9)	9 (1.8)	18 (3.1)	54 (3.3)	自分で調節できる年になったとき できるようにするべきだと思って 隠す（スマートフォン） 見えないように メディアをなくす 児童が TV に関心が無い 使用時間以外にコードを抜く

立つ検索及び使用だった。

そのうち、一番高い頻度として示された応答は親の指導で決められた時間と規則を適用して使用するようにすることについての内容で、応答者の中、45.7%の親が答えた。次に、ほとんどメディアを使用しない方法（n=142, 8.9%）が高かった。

2) メディア活用にあつての必須的な教育内容

メディア活用にあつて必須的な教育内容を開放型項目で設問をした。開放型項目について自由に作成した内容を意味単位で分析した結果は次の<表7>である。

親の自由意見を何回も繰り返し替えて読み、意味ある核心の語句を中心として一次分類した後、分類された核心の語句を通じて意味単位を抽出した。親はメディア活用にあつてメディア使用の問題点について教育、決められた時間の間、使用できるように教育、正しい使用方法、学習用途で利用できる教育、他の遊び活動についての教育を必ず教育してほしい事項として答えた。一番高い頻度だった応答はメディア使用の問題点についての教育を要求し、応答者の中33.8%の親が答えた。次に、決められた時間の間、使用できるようにする教育（n=214, 27.2%）が高く要求された。

表7. メディア活用にあつて親が思う必ず教育すべきと思う主題

N (%)

意味単位	スマートフォン	コンピューター	TV	合計	自由意見の例
メディア使用の問題点について教育	115 (39.5)	67 (33.1)	83 (28.2)	265 (33.8)	使用しすぎた時の問題点 児童の観点で教育 メディア使用の長所短所の事例 暴力的な内容、アホ箱、副作用、有害性
決められた時間の間使用できるように教育	64 (29.1)	52 (25.7)	98 (33.3)	214 (27.2)	時間約束及び規則 決められたプログラムだけ視聴 使用時間を守るように
正しい使用方法についての教育	64 (29.1)	60 (29.7)	68 (23.1)	192 (24.4)	使用する時守るべき事項 正しい姿勢 年齢に合う使用 正しい／正しくない使用 有害プログラムとお勧めプログラムを教える 学習用途だけに使用するようにする 使用用途について教える 親と一緒に使用
他の遊び活動についての教育	11 (3.7)	7 (3.4)	16 (5.4)	34 (4.3)	家でできる遊びを教える 本読み
使用を禁止する教育	9 (3.0)	7 (3.4)	3 (1)	19 (2.4)	おもちゃがないことが認識できるようにする 使用を禁止する

Ⅳ. 論議及び結論

本研究は3歳－5歳の子供の親のメディア使用実態と自身が知覚する幼児のメディア使用実態を調査しました。その原因を見て、親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響を検証してこれによる親が知覚した幼児のメディア過没入についての解決方を模索するために実施したものである幼児のメディア使用実態とメディア過没入解決方についての設問紙を利用して親1307名に実態を調査した結果、

1つ、親のメディア使用実態の中、親両方がスマートフォンの使用が共通的にほとんど毎日使用する頻度が高く、一日に1時間未満で必要な時間に活用することに示され、これと似たようにTV視聴は一日に1－2時間程度視聴すると示されたが、コンピューターの使用は平日ほとんど使用しないことが分かった。また、父親の場合、メディア使用を通じて検索及びニュースを見たりゲームをすることに示され、母親はメディア使用を通じて検索及びニュースを見たり買い物をすることだった。このような結果は利用時間現況で、1時間未満に使用する親が多数であり、スマートフォンのメッセージ及びSNSサービスとゲームの使用が高い順位だったと報告した조권형（2014）の研究と部分的に類似の結果が見られる。

二つ、親が知覚した幼児の人的事項とスマートフォン、コンピューター、TV使用実態を頻度、時間、使用時期、活動、同伴者、規則、使用理由、長所短所、空間、認識度、解決方、中毒程度などの内容で見ると、スマートフォン、コンピューターの普段使用頻度及び平日使用する時間はほとんど使用しないことと示されたが、TVは普段毎日視聴することが提示された。また、週末使用する時間でも同じくスマートフォン、コンピューターはほとんど使用しないことと示されたが、TVは普段週末にも毎週視聴することが提示された。これは幼児のメディア使用がスマートフォン、コンピューターよりはTV視聴に限られていることが分かる。そして、メディアを主に使用する時間帯はスマートフォンとコンピューターは週末の間に主に使用して、TVは主に午後5時から夕食の前に視聴することだった。このような結果は情報化実態（2006）で調査されたインターネットを使用する時間は一週間の平均4.7時間で、週に平均2－4時間だと調査された結果より少なく使用することで、まだ幼児のメディア使用は多様ではなく、主にTV視聴に限られていることが分かり、これについての親のTV視聴についての適切な視聴方針と教育が必要だということが分かる。また、メディアを通じて主にする活動は様々であり、スマートフォンはゲームが多く、コンピューターを通じては韓国語、数科学、英語など学習を主にすることで、TVは漫画やドラマなど動画視聴が高かった。このような活動を主に一緒にする人はスマートフォンは一人で使用するが、コンピューターとTV視聴は兄弟姉妹と一緒にするということが分かった。幼児のメディア使用可否を決定する場合スマートフォン、コンピューター、TV視聴、全て状況により幼児と親と一緒に決定して使用することが分かった。このような結果は幼児は主に週末の間に家庭で兄弟姉妹と一緒に使用する研究（신소영, 2000；김승옥, 2002；심혜영, 2003；임선영, 2013）と一致する。これは親よりは兄弟姉妹がメディアを使用しながらもっとコミュニケーション

ンが円滑で、許容的な対象になるという임선영 (2013) の研究と一致する。メディアを許容する理由を見ると、スマートフォンは子供が興味を感じるから許容し、コンピューターは学習的要素によって、TV は親が遊んでくれない間、退屈な時間をなんとか過ごすことができるというを理由として許容することが分かる。このような結果は普段に幼児がスマートフォンを使用しようとする時母親の反応はどうかについての応答の中、スマートフォンの代わりに、他の活動を提示するという임선영 (2013) の結果と部分的に類似であり、幼児がインターネットを通じて期待される教育的な効果でインターネットを通じて知りたい知識をより易しく確実に得ることが一番高く見られ、親の大半が幼児がインターネットで得て欲しい内容としては、学習能力及び発達過程に必要な情報を得ることが一番高く示された강금식 (2006) の研究結果と一致することが分かる。幼児のメディア使用の長所は全然ないことと報告し、短所とされるメディアの順位は1位はスマートフォン、2位はTV、3位はコンピューターで、理由はスマートフォンはゲームにあまりにも過没入する可能性があることであり、TV 視聴は集中して見るから食事時間が長くなるということで、コンピューターにあまり短所は無いことが分かった。これについてメディア使用がただしくできる方法はスマートフォン、コンピューターは正しい使用法についての教育が必要し、TV は対案活動として外で遊ぶことなどの頻繁な外部活動と報告された。メディア使用により現在、問題を抱えているのかの可否は全てほとんどない水準だと認識された。現在の幼児のメディア使用についての情報や問題点についての解決方法で自分の親と論議することだった。研究調査対象が親として自分が知覚した幼児の中毒の程度はスマートフォン、コンピューター、TV 全てまだ全然そうではないと認識していて、中毒による問題が深刻でないことが分かる。

三つ、親のメディア使用が幼児のメディア使用に与える影響を見ると、まず、幼児の一週間のスマート使用時間には母親の週末スマートフォンの使用時間が一番影響力が高く、母親のコンピューター活動、母親の最終学力、母親の就職、父親の週末コンピューターの使用時間順として有意な影響を与えることだった。幼児の一週間のコンピューターの使用時間には母親のコンピューター活動が一番影響力が高く、父親の週末コンピューターの使用時間、母親の就職形順として有意な影響を与えることだった。幼児の一週間のTV 視聴使用時間には父親のコンピューターの使用時間が一番影響力が高く、母親のコンピューター活動、母親の最終学力、母親の就職形の順として有意な影響を与えることである。このような研究結果は이정림, 도남희, 오유정 (2013) の研究で幼児の使用時間が平日に比べて週末に多いことと脈略を一緒にし、박소영 (2015) の研究で平日に比べて週末に親が子供と共に時間を過ごしながらか媒体をより易しく遊びを提供する部分と一致する。また、幼児にメディアを初めて接するようにした人、メディア使用を決定をする人、メディアを一緒に使用する人のみんなから親が一番高い頻度としての結果で、幼児は親によりスマートフォンなどメディアを初めて接することになる研究(강연주, 2104; 이원석, 성영화, 2012) 結果と一致する。したがって、幼児は自分でメディアを持ち、使用できなくて幼児と近い養育者のメディア使用習慣と許容により使用が決定されるため(이윤미, 2014; 박소영, 2015), 親の正しい習慣と態度が必要であり、幼児が家族と一緒に楽しめる多様な遊びを開発し、体験遊びを広報することが必要することが分かる。

親が知覚した幼児のメディア使用実態とその依存への解決策について（朴 錫圭）

四つ、親が知覚した幼児のメディア過没入解決案の中、親が家庭で実践している幼児の正しいメディア使用についての案について開放型項目について自由に作成した内容を意味単位で分析した結果、親の指導で決められた時間と規則、親が子供の模範として使用自制、他の遊び活動、ほとんど使用しない、使用できなくする、学習に役に立つ検索及び使用順だった。そのうち、一番高い頻度だった応答は親の指導で決められた時間と規則を適用して使用させることについての内容で、次にほとんどメディアを使用しない方法が高かった。また、親が知覚した幼児のメディア過没入解決案の中、メディア活用にあつて必須的な教育内容についてはメディア使用の問題点について教育、決められた時間の間、使用できるように教育、正しい使用方法、学習用途で利用できる教育、他の遊び活動についての教育と応答された。一番高い頻度だった応答はメディア使用の問題点についての教育を要求し、次に決められた時間の間、使用できるようにする教育が高かった。このような結果は幼児のスマートメディア使用についての家庭内の規則（時間、プログラム）がある場合が高く、このような規則の有無と関係して Kasir Family Foundation (2003) では親が幼児にスマートメディアを許容する場合、家庭内の規則、使用時間を計画したり、制限するなどの適切な使用時間についての指針を持つべきだといった結果と部分的に一致し、幼児が育てられながら現在の青少年に比べてスマート器機をもっと接することになるので、スマート器機の使用時間を制限して使用するよう指導するのが望ましいと主張する研究（황태경, 2013; 박소영, 2015）の結果と部分的に類似の面がある。

以上のような研究結果と共に、以後の幼児のメディア過没入の速い予防と治癒のためには、正確な幼児のメディア使用実態と親が知覚した幼児のメディア使用実態を把握して、正しい親の認識と理解のために幼児のメディア教育資料を作り、標準化された内容が必要であり、これを通じて親自身が家庭で点検と予防資料として活用できるようにすることが今後の課題として残っている。

参考文献

- 장금식「가정에서의 유아용 인터넷 사이트 활용실태와 부모의 인식에 관한 연구」경기대학교 교육대학원 석사학위논문(2006)
- 장병재「게임과몰입 유아의 행동 특성에 관한 인식」열린유아교육연구(2008) 13 頁
- 장연주「유아의 스마트폰 사용실태와 어머니의 인식 및 유아행동특성간의 관계」동국대학교 교육대학원 석사학위논문(2014)
- 장정원, 장수진, 김승옥「유아의 인터넷 게임중독 경향성에 미치는 유아와 가족변인의 영향」어린이미디어연구(2008) 10 頁
- 권연정「만 2세반 영아의 스마트기기 이용에 대한 어머니들의 인식 : 스마트폰과 태블릿PC를 중심으로」육아지원연구(2014) 9 頁
- 김병년, 고은정, 최홍일「대학생의 스마트폰 중독에 영향을 미치는 요인에 관한 연구: 중독 위험군 분류에 따른 차이를 중심으로」한국청소년연구(2013) 24 頁
- 김승옥「가정에서의 유아 컴퓨터 활동에 대한 현황조사」덕성여자대학교 석사학위논문(2002)
- 김환남, 이선애, 이은경, 천재현, 김성희「스마트미디어 노출 환경이 유아의 스마트미디어 중독에 미치는 영향」

- 한국보육학회지(2014) 14 頁
- 박소영 「유아의 스마트미디어 사용실태 과다사용에 영향을 미치는 변인 연구」가톨릭대학교 대학원 석사학위논문(2015)
- 박정아 「중학생의 자기통제력이 스마트폰 중독성향에 미치는 영향」제주 대학교 대학원 석사학위 청구논문(2013)
- 신소영 「취업모 가정의 유아 컴퓨터 활동 환경연구」숙명여자대학교 석사 학위논문(2004)
- 심혜영 「가정에서의 유아 컴퓨터 사용에 대한 부모의 인식」연세대학교 석사학위논문(2003)
- 이경숙, 정석진, 박진아 「0-3세 영유아의 영상물 과몰입 실태조사」한국심리학 회 연차학술발표대회 논문집(2013)
- 이경옥, 김민화, 김승옥, 김혜수 「유아동 및 청소년의 인터넷 게임중독 척도 개발연구」한국정보문화진흥원 연구보고(서울: 한국정보문화진흥원 、 2 0 0 6) 06 ~ 15 頁
- 이미연 「스마트폰 사용에 영향을 미치는 유아 변인 연구」한양대학교 교 육대학원 석사학위논문(2014)
- 이원석, 성영화 「유아의 스마트폰 이용과 관련한 어머니의 인식」육아정책 연구(2012) 6 頁
- 이윤미 「유아의 어머니의 스마트폰 사용습관, 유아의 주의집중 및 자기 조절력 간의 관계」경희대학교 교육대학원 석사학위논문(2014)
- 이은경 「유아의 컴퓨터 게임의 활용방안과 중독예방」한국 어린이 미디어 학회 춘계 학술대회 논문집(2007)
- 이정림, 도남희, 오유정 「영유아의 미디어 매체노출실태 및 보호대책」서울 육아정책연구소(2013)
- 이주연 「유아교육용 스마트폰 앱에 대한 부모 인식조사- 유아의 행동패 턴에 따른 부모 인식 조사를 중심으로」경희대학교 석사학위논문(2011)
- 임명희, 박윤조 「영아의 의사소통능력 및 정서발달과 영아특성변인, 어머니 특성변인 간의 관계」한국보육학회지(2011) 11 頁
- 임선영 「가정에서 유아 스마트폰사용실태와 어머니의 허용과 인식 -계양구 유아를 대상으로」중앙대학교 교육대학원 석사학위논문(2013)
- 정보통신부와 인터넷 진흥원 「2006년 하반기 정보화 실태」(2006)
- 조권형 「초등학생의 스마트폰 중독과 환경적 요인의 관계」경인교육대학교 교 육대학원 석사학위논문(2014)
- 최자은, 문수백 「학령기 아동의 인터넷 중독 관련 변인들간의 관계구조 분 석」한국보육학회지(2010) 10 頁
- 최지영, 김민정 「미국과 한국 어머니의 취업 유무에 따른 자녀의 전자미디 어 사용실태와 그에 대한 어머니 인식의 비교 연구」유아교육 보육행정연구(2008) 12 頁
- 황태경 「유아의 스마트기기 사용실태와 몰입경향성, 자기조절력, 친사회 적 행동간의 관계」신라대학교 교육대학원 석사학위논문(2013)
- Kaiser Family Foundation (2003). *Zero to six: Electronic media in the lives of infant, toddlers and preschoolers*. Menlo Park, CA:Author.
- Young, K. S. (1997). What makes the internet addictive: Potential explanations for pathological internetuse. *Paper presented at the 105th annual conference of the American Psychological Association*.